

- ◆ 福島第一原子力発電所の廃炉に向けた取組について、本年2月9日～17日(9日間)、IAEA調査団によるレビューが実施され(今回で3回目)、最終日には、高木経済産業副大臣に対し、レンティッホ調査団長から概要報告書が手交された。
- ◆ 今回のレビューでは、前回のミッション(2013年11月)から、4号機の燃料取り出し完了や汚染水浄化システムの改良・拡充など、著しい進展を達成しているとの評価を受けた。
- ◆ また、トリチウムを含む水の取扱いについては、全ての選択肢を検討しつつ、ステークホルダーとよく協議することという前回と同様の助言がなされた。

< 今回のレビューミッションの様子 >



書面審査



福島第一原発視察

< 概要報告書のポイント >



主要な評価項目

- 発電所の状況は、以下をはじめとして多くの重要なタスクが完了しており、前回のミッションから大きく改善している。
 - ✓ 4号機からの燃料取り出しの完了
 - ✓ 汚染水浄化システムの改良・拡充
 - ✓ 汚染水を貯蔵するための新たな改良型タンクの設置
 - ✓ 地下水バイパスの運用開始
 - ✓ 発電所内の除染、作業時の被ばく低減
- 中長期ロードマップの改訂に向けて、原賠・廃炉機構が策定中の戦略プランにおけるリスクの特定、定量化、優先順位の明確化をするとともに、燃料デブリ取り出し工法について複数の選択肢を策定しようとすることを評価。

トリチウム水についての助言項目

- 保管されている汚染水について、より持続可能な解決先が必要。トリチウムを含む水について、海洋放出を含む全ての選択肢を検討しつつ、ステークホルダーとよく協議すること。(前回ミッションと同様)